

普及活動情勢報告（令和7年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

特別栽培米の適期収穫に向けて ～特別栽培米の現地検討会～



登熟度を確認している様子

9月16日及び25日、四万十町の水稲ほ場でJ A高知県四万十エコ栽培米生産部会が収穫前の現地検討会を開催し、生産者11名が参加しました。

農業改良普及所は、積算気温と直近の気温の推移から予想した収穫適期の目安について説明しました。

生産者からは、「今年は例年よりも色付きが早い」「穂の元が青いから収穫はまだ先が良い」等の声があり、適期収穫に向けて活発な意見交換が行われました。

農業改良普及所は、今後も特別栽培米の品質向上を支援します。

新高梨の適期収穫に向けて ～新高梨の目慣らし会～



糖度、硬度測定の様子

9月25日、J A高知県四万十梨生産部会が新高梨目慣らし会を開催し、生産者4名が参加しました。

農業改良普及所は、積算気温から予想される収穫適期について説明しました。その後、参加者全員で果実の糖度や硬度を測定し、試食を行い果実の熟れ具合を確認しました。

生産者からは、「積算気温と糖度・硬度から、収穫適期に達していることや、糖度(Brix)が12を超えていることが確認できた。安心して収穫作業を開始したい」との声が聞かれました。

農業改良普及所は、今後も梨の安定生産を支援します。

水封による土壌還元消毒方法の確立に向けて ～ショウガ実証ほの現地確認～



水封時の還元状態確認用の還元電位計と、水位確認用の水田ファーモ設置の様子

9月26日、四万十町で、9月1日に処理を開始した水封土壌還元消毒試験の実証ほを現地確認しました。

この実証ほでは、生産者やメーカーの協力の下、根茎腐敗病の消毒のために行う土壌還元消毒の被覆を、ポリフィルムから省力でできる湛水に変えて防除効果をみています。

現地確認では、水位を維持でき、順調に試験が進んでいました。

生産者からは、「還元資材の投入はどうやるか」「処理後の水位はどれぐらいに維持すべきか」「雑草が生えても効果はあるのか」といった声がありました。

農業改良普及所は、10月下旬に機材を回収して水封土壌還元消毒の効果を検証します。

新品種の現地導入に向けて ～ニラの現地検討会～



現地検討会の様子

10月20日、J A高知県四万十ニラ部会が現地検討会を開催し、生産者5名が出席しました。

農業改良普及所は、令和8年から発売予定の新品種と慣行品種の比較試験について、草丈や分けつ数などの生育調査の結果を報告しました。

生産者からは、新品種について「葉色が濃い」「分けつが少ないため初期の収量が少なくなりそう」などの意見が聞かれました。

農業改良普及所は、今後も継続して生産者やJ Aとともに新品種の産地への導入について検討します。